船室について

- 全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付きとなる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのお一人様利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機能付きトイレを完備しています。
- C1、G、I、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機能付きトイレのオプション申込が可能です（有料）。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのソファは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4クラスは船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を解除なさる場合、船室指定取消料として旅行代金の5%を申し受けます。90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます）。
- お得な年齢割引もご利用ください（大人1名につき未就学児1名無料（詳しくは弊社までお問い合わせください）。
- 相部屋申し込みのお客様はシャワー、トイレ、ロッカー、その他の設備は同室者と共用です。
- セミシングルタイプ、フレンドリータイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供するコンパートメントタイプです。
- 旅行開始時13歳未満（中学生を除く）のお子様連れでの相部屋申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です（有料）。ベッド下のスペースは同室者との共用です。

ビザ（査証）取得について

- クルーズに必要なビザ（査証）は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。（有料）
- 参加いただくオプショナルツアーによっては、ビザ取得のための追加代金や追加書類をご提出いただく場合があります。
- 本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。
- 米国入国には、ESTA（米国電子渡航認証システム）の事前取得が義務づけられています。（有料：40米ドル）
- シェンゲン協定により、ご出発前のシェンゲン加盟国への旅行日数によって当クルーズにご参加いただけない場合がございます。
- 2026年より欧州渡航情報認証制度（ETIAS）の導入が予定されています。

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救援者費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならない場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より下記の通り危険情報が発出されておりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しましたので本旅行を催行いたします。

「レベル1：十分注意してください」
香港、コロンボ、ポートサイド、オーチョリオス、クリストバル

「レベル2：不要不急の渡航は止めてください」
マンサニージョ

尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

旅行条件（要旨）－詳しい旅行条件書をお渡しいたしますので、内容をご確認のうえお申し込みください－

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約
本旅行はNGOピースボートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス（以下「当社」といいます）が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」といいます）を締結することになります。

2. 旅行のお申し込み
当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額（別紙参照）を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの
①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊（ご請求書に記載された船室クラス）、船内イベント（一部有料あり）の代金 ③明示した食事回数の料金 ④船舶による手荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの（上記3項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を以下に例示いたします。）
①オプショナルツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡航手続費用（ビザ代・渡航手続代行手数料・予防接種料金等）④船内のチップ ⑤ポートチャージ（港湾施設使用料等）⑥国際観光旅客税 ⑦海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑧超過手荷物料金 ⑨ご自宅から発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑩船舶のフューエル（燃油）サーチャージ ⑪船舶に課せられるEU-ETS・FuelEU Maritime・GFI等、環境規制対応費（環境対応サーチャージ）⑫訪問する国や自治体等により課される環境保全税・観光税・オーバーツーリズム対策税

5. 旅行代金のお支払い
①旅行開始日の前日から起算してさかのぼって60日目に当たる日以降の当社の定める日までに申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用客船の貸切代金の一部に使用いたします。

6. 特別補償
当社はお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじめ定める額の補償金および見舞金を支払います。

7. 取消料
お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

取消日		取消料
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	91日前まで	無料
	90日前以降60日前まで	旅行代金の5%
	59日前以降29日前まで	旅行代金の50%
	28日前以降15日前まで	旅行代金の80%
	14日前以降	旅行代金の100%

本旅行の使用客船は貸切船舶によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代金の払い戻しはありません。

8. その他
①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に定めない事項は当社旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当社ウェブサイトよりご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2026年2月12日を基準としています。

旅行代金一覧（単位：円）

※いずれも大人お一人様旅行代金です

船室クラス	バルコニー/窓	フロア	ペア（2人部屋）	相部屋可	シングル（1人部屋）	セミシングル（2人相部屋）	フレンドリー（3～4人相部屋）
オーナーズスイート	バルコニー付	9-10	A1 15,050,000	—	—	—	—
ペントハウススイート		8	A2 11,400,000	—	—	—	—
プレミアムスイート		9-10	A3 9,890,000	—	—	—	—
スイート		8	A4 9,270,000	—	—	—	—
ジュニアスイート		10	B 8,500,000	—	—	—	—
バルコニーⅠ		10-12	C1 5,980,000	○	I 11,362,000	—	—
バルコニーⅡ		9	C2 5,880,000	○	J 11,172,000	—	—
アウトサイドワイド	窓あり	9-11	D1 5,080,000	○	—	—	—
アウトサイドビュー		8	D2 4,980,000	○	—	—	—
アウトサイドⅠ		8	E 4,760,000	○	K 8,568,000	E2 4,860,000	—
アウトサイドⅡ		5-6	F 4,580,000	○	L 8,244,000	F2 4,680,000	F4 4名 3,664,000
スタンダードインサイドⅠ	窓なし	8-11	G 3,600,000	○	M 6,480,000	G2 3,700,000	G3 3名 3,240,000
スタンダードインサイドⅡ		5-6	H 3,480,000	○	N 6,264,000	H2 3,580,000	H4 4名 2,784,000

※フレンドリータイプは、出航時75歳未満のお客様限定です

※H4クラスのフロアは8-9Fとなります

別途諸費用（単位：円）

※2026年2月12日現在の金額です

チップ合計	183,120
ポートチャージ合計	83,160
ビザ取得代金合計	19,000
国際観光旅客税	1,000
米国アラスカ州クルーズ税	5,320

- 最少催行人員：1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝107回、昼106回、夕107回
- 医師、看護師が乗船します
- 使用客船：パシフィック・ワールド号（総トン数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：2,419名/運航会社：シーホークコーポレーションリミテッドインク）

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス（観光庁長官登録旅行業 第617号）
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japangrace.com
一般社団法人日本旅行業協会正会員　旅行業公正取引協議会会員

お申し込み・ご相談は 0570-030-617
11:00-17:00（定休：土日祝）
この電話は東京に着信し、通話料はお客様負担となります

振込口座	三菱UFJ銀行	三井住友銀行	みずほ銀行
口座名義はいずれも（株）ジャパングレイス	高田馬場支店 普通 1211859	高田馬場支店 普通 9103064	高田馬場支店 普通 1991082

Coordinated by ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL：03-3363-7561 / FAX：03-3363-7562 www.peaceboat.org

PHOTO：PEACEBOAT、上野隆文、岡田圭太、片岡和志、松田咲香、水本俊也、吉田タイスケ、ソー写ルグッド株式会社、Georgi Tushev、Adobe Stock、Getty Images、shutterstock.com

【プライバシーポリシー】
株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。
https://www.pbcruise.jp/privacy/

営業所のご案内
来店の際はご予約をお願いします

（株）ジャパングレイス本社営業所
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13マリンビル2F
FAX：03-5287-3083（24時間受付）
総合旅行業務取扱管理者：中瀬朋宏・延原和正・本山誠 ※

（株）ジャパングレイス大阪営業所
〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27桜橋千代田ビル8F
FAX：06-6442-3701（24時間受付）
総合旅行業務取扱管理者：松木健介 ※

※総合旅行業務取扱管理者は、お客さまの旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく上記の総合旅行業務取扱管理者にお尋ねください。

V132-A

PEACE BOAT VOYAGE 132

Apr 2029 | EUROPE & ALASKA

季節が微笑む、その場所へ

ベストシーズンに、最多寄港地をめぐる旅

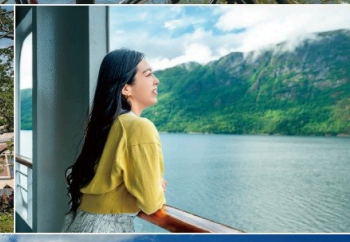
2029年4月出航
ヨーロッパ周遊＆アラスカコース

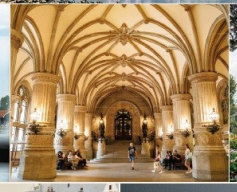
横浜発着109日間
2029.4.5（木）－7.22（日）

Yokohama	Hamburg
Hong Kong	Oslo
Singapore	Stockholm
Colombo	Helsinki
Port Said	Tallinn
Santorini	Copenhagen
Piraeus	Reykjavik
Catania	New York
Tarragona	Ocho Rios
Lisbon	Cristobal
Le Havre	Manzanillo
Zeebrugge	Vancouver
Amsterdam	Seward

パシフィック・ワールド号でゆく
ピースボート地球一周の船旅

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス





ベストシーズンのヨーロッパで
自分だけの自由な旅を

— ヨーロッパ周遊 世界一周クルーズ —

この度発表いたしました「地球一周の船旅 Voyage132」は横浜を出航した後、アジア各国をめぐり“ベストシーズン”とよばれる初夏のヨーロッパを訪れるクルーズです。

5月にギリシャに到着するパシフィック・ワールド号は、地中海からジブラルタル海峡を通航し、ユーラシア大陸最西端のロカ岬があるリスボン（ポルトガル）から北上。フランス、オランダ、ドイツといった西ヨーロッパの各国、雄大なノルウェーのフィヨルドと北欧の全5カ国をめぐり、アイスランドに到着する6月までの34日間でヨーロッパ各地15寄港地を訪問します。

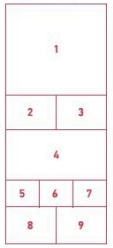
ヨーロッパでは、出入国審査なしで自由に各国間を移動することができる「シェンゲン協定」により、EU圏内で一時下船をして寄港地から足をのばして遠方で観光して船に戻るという楽しみ方も可能です。同じように遠方を訪れるオーバーランドツアーも多数実施し、より幅広い楽しみ方をしていただけるプログラムを準備しています。

このシーズンにしか出会うことができない、輝くヨーロッパの魅力を存分に感じる世界一周クルーズへのご乗船をお待ちしています。

アムステルダムの街並み。運河のある美しい風景。

PEACE BOAT
VOYAGE 132

COVER PHOTO



1 アムステルダム（オランダ）
2 アムステルダム国立美術館（オランダ）
3 ノルウェーフィヨルド遊覧
4 モン・サン・ミシェル（フランス）
5 ザーンセ・スカンス（オランダ）
6 ハンブルク市庁舎（ドイツ）
7 ジヴェルニー（フランス）
8 サントリーニ島（ギリシャ）
9 アムステルダム国立美術館（オランダ）

01 EUROPE - 欧州周遊
P4-13
フランス・ドイツ・オランダ・北欧5カ国
「国家や都市よりもゆるやかな地域」本橋哲也（英文学者・翻訳家）
おいしい！たのしい！欧州の街歩き
めくるめく絶景の数々！欧州の世界遺産

02 VOYAGE TALK
P15
湯川れい子（音楽評論・作詞家）
岡根谷実里（台所研究家）

03 BEAUTIFUL ALASKA
P16-19
静かなる感動に出会う アラスカクルーズ
アラスカ氷河クルーズの出発の地 - バンクーバー
ここからはじまる アラスカ冒険の旅 - スワード

04 DESTINATIONS & PORTS
P20-23
世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧
「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

ザーンセ・スカンス（オランダ）

ヘルシンキ（フィンランド）

ルーアン美術館（フランス）

欧州周遊

心ときめく、ヨーロッパ

EUROPE

オンフルール（フランス）

ストックホルム（スウェーデン）

モン・サン・ミシェル（フランス）

リスボン（ポルトガル）

コペンハーゲン（デンマーク）

Where Every Port Becomes a New Overland Adventure

寄港地から広がる、自由な陸路の旅

地中海から西ヨーロッパ、イベリア半島、そして北欧へ——
ヨーロッパをめぐる旅のはじまりです。
寄港地を起点に、鉄道やバスを自由に組み合わせて内陸都市へ。国境審査のないシェンゲン圏だからこそ、船を離れて自分だけの旅路を切り開くことができます。公共交通機関を使いこなし、憧れの場所へ自ら赴く。その一歩踏み出す「自由」こそが、ヨーロッパの魅力を最大限に引き出し、旅をより深く、豊かなものへと変えていきます。

下記のマークが付いた場所は「オーバーランドツアー」か「一時下船（フリートラベル）」でご訪問いただけます

OVERLAND　オーバーランドツアー

空路や陸路を使って通常の寄港地からは遠い場所を訪れ、次の寄港地で再び合流する、ピースボートクルーズがご案内するツアーです。

FREE TRAVEL　一時下船（フリートラベル）

ご自身で予算・行き先を決め、移動ルートや宿泊などを手配し、思い思いにカスタマイズして“自分だけの旅”をお楽しみください。

セーヌが紡ぐ、美しきフランスへの旅

France フランス

ル・アーブルに寄港したら、そこは「花の都」パリへの入り口。列車に乗りセーヌ川を遡れば、芸術と歴史が息づく美しい街並みがあなたを待っています。船を離れ、自分のペースで川沿いの古都をめぐり、パリの街角で美と文化に浸る── 寄港地から始まる自由な鉄道旅が、フランスの奥深い魅力をより鮮明に、ドラマチックに広げてくれます。

OVERLAND

Le Havre　ル・アーブル

戦後復興を遂げたモダニズムの結晶

コンクリート建築の父オーギュスト・ペレが再建した世界遺産の近代都市。機能美の街並みと印象派を育んだ美しい街です。

Honfleur　オンフルール

ノルマンディーの宝石

セーヌ河口に佇む絵画のような港町。印象派を魅了した木造家屋と中世の面影、気品ある芸術の薫りが今も色濃く漂います。

Giverny　ジヴェルニー

光あふれる至福の村

セーヌ川のほとりに位置する印象派の聖地。川べりの「ギャンゲット」の賑わいや田園風景が、人びとを19世紀の世界へ誘います。

Rouen　ルーアン

FREE TRAVEL

百の鐘楼が鳴る街

壮麗な大聖堂や中世の木組みの家々が並ぶ、ノルマンディーの歴史を刻む古都。モネの連作などの傑作が誕生した地でもあります。

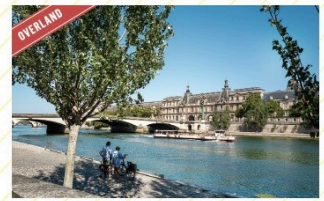
La Roche-Guyon　ラ・ロッシュ・ギヨン

FREE TRAVEL

フランスの最も美しい村100選に入選

白亜の断崖、崖の斜面に築かれた古城、そして麓に広がる中世の街並みが織りなす唯一無二の絶景が多くの画家を魅了しました。

Paris　パリ


OVERLAND

永遠の憧れ

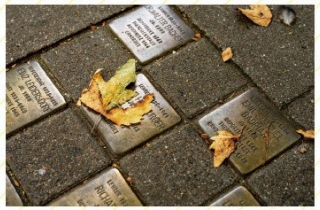
セーヌ河畔に芸術と歴史が咲き誇る、美の終点。印象派の殿堂オルセー美術館や名画の舞台となった街角が今も輝きを放ちます。

港に息づく機能美の極致
赤レンガの壁が物語る、建築群の競演

Germany
ドイツ / ハンブルク

現代の視点で見ると少しレトロな「モダニズム」の街並みは、幾何学的な意匠と機能性が調和した、独創的な美しさを放っています。ドイツらしい堅牢な建築美と都市デザインの進化を肌で感じることができるでしょう。その一方で、ナチスドイツの過ちを語り継ぐため、日常の風景に溶け込むように、いたるところに関連施設や碑が佇んでいるのも、この街の大きな特徴です。

つまずきの石



足元に刻まれた記憶

かつてここに暮らした犠牲者の名を刻み、家の前の路上に設置された真鍮のプレート。歩む足を止め、日常の中に埋もれさせてはいけない個々の人生と歴史に想いを馳せます。

ノイエンガンメ強制収容所記念館

沈黙が語る負の遺産

北ドイツ最大の収容所跡。過酷な労働と非人道的な扱いが行われた現場を保存し、展示を通じて犠牲者を追悼するとともに、二度と繰り返してはならない歴史の真実を伝えます。

ベルリンの壁

分断から統合へ

かつて世界を二分した冷戦の最前線となった壁。現在はアートが描かれたギャラリーなどとして残り、自由の尊さと対話によって壁を乗り越えた市民の力を象徴しています。

水上に築かれた世界遺産の街
知恵と開拓の精神が結実した運河の迷宮

Netherlands
オランダ / アムステルダム

オランダを象徴するアムステルダムは、干拓によって築かれた「水上に生まれた世界遺産の街」。緻密な都市計画のもと、扇状に広がる水路と1000を超える橋が調和し、今も当時の姿を留めています。厳しい自然を克服し、自由と繁栄を勝ち取ってきた人びとの知恵と開拓の精神。その歴史が現代にも受け継がれ、この美しい景観の中に静かに息づいています。

美しい運河

水の都が描く風景

街中に張りめぐらされた運河沿いには、歴史ある街並みが続き、個性豊かな建物が立ち並びます。水面に映る景色とともに、水の都ならではの穏やかで絵になる情景が広がります。

ビターバレン

オランダの国民的スナック

サクサクの衣の中に濃厚な牛肉のラグーが詰まった一口コロッケ。オランダのパブの定番商品で、マスタードを添えてビールとともに味わうのが現地の粋な楽しみ方です。

デ・クーベル

寛容が生んだ『未来の街』

造船所跡地を再生した循環型社会の実験区。廃材を利用したオフィスや、ゴミを出さない仕組みが徹底されたカフェは、地球に優しい持続可能な暮らしを具体化しています。

欧州周遊
EUROPE

光と水が織りなす憧憬の地へ
至福の北欧5カ国周遊の旅

北欧5カ国、そのすべてをめぐる旅へ。壮大な自然と洗練された街並みが出会うこの地で、ピースボートクルーズは各国の価値観や美意識を紐解いていきます。経済発展と福祉を両立させ、世界をリードする「幸福」の先進国たち。5つの個性が輝く航路をゆき、北欧の魅力に迫ります。

「幸せの国」を形づくる、心地よい時間と「循環」する暮らし

Denmark
デンマーク / コペンハーゲン

長い歴史を誇る王室を戴き、洗練された北欧デザインが彩る美しい島国。「世界一幸せな国」と称される背景には、お金や物では測れない、心安らぐひとときを大切にする「ヒュッゲ（Hygge）」という哲学が息づき、風力発電や自転車文化に見られる高い環境意識も特徴です。アンデルセンの童話が息づく街並みを歩き、豊かさの本質に出会います。

衛兵交代式

歴史の息吹を伝える、ロイヤルの気品

正午、アマリエンボー宮殿に響き渡る規則正しい足音。熊毛の帽子を被った衛兵たちの交代式は、古き良き王室の伝統を今に伝え、その凛とした姿は街に深い品格を与えます。

クリスチャニア

自由と多様性が共生する、もうひとつの社会

かつての軍用地を再生し、独自のルールで運営されるヒッピーたちの楽園。非暴力的な創設経緯と、住民間の対話による自治は「平和の象徴」として広く認知されています。

緑豊かな都市の農園レストラン

食の未来を育むサステナブルな都市の形

都心のビルの屋上に現れるアーバンファーム（都市型農園）。環境にも配慮し、自分たちで育てた野菜のみで調理する循環型ライフスタイルは、食の未来を象徴する試みです。

アイスランド / レイキャビク
Iceland

氷と火が共存する、地球最果ての神秘の島

火山が放つ熱い躍動と、巨大な氷河が湛える静寂。地球の力強いエネルギーがぶつかり合うこの島では、滝、間欠泉、黒砂海岸といった、神秘の風景が広がります。最果ての地ならではのダイナミックな絶景を前に、自然への畏敬の念と、生き生きとした地球の鼓動を確認できます。

レイキャビクの彩り豊かな街並みは、地熱による再生可能エネルギー100％の電力で支えられています。大地の熱をそのまま暮らしの力に変える先進的な試みは、自然と共生しながら未来を切り拓く、この島ならではの力強い知恵の結晶です。

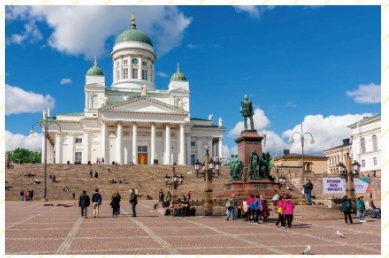
スウェーデン / ストックホルム
Sweden

水面に輝く美しき群島と、洗練を極めた水の都

『北のベニス』と称されるストックホルムは、14の島々が橋で結ばれた水の都。中世の面影を色濃く残すガムラスタンの街並みと、モダンで洗練された北欧デザインが見事に調和しています。水辺を彩る色彩豊かな建築群を眺めながら、歴史とトレンドが交差する知的な街歩きを楽しめます。

洗練された北欧雑貨が並ぶ街並みには、生活を愛しむ美意識が息づいています。仕事の手を止めてコーヒーと甘いお菓子を楽しむ『フィーカ』の習慣も、人生を豊かにする重要な儀式。心地よいデザインと豊かな対話が、スウェーデンの日常を彩ります。

フィンランド / ヘルシンキ
Finland

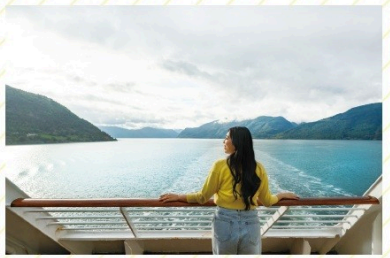


森と湖に癒やされる、世界一幸福な純白の国

どこまでも続く深い緑の森と、鏡のように美しい湖。フィンランドの旅は、日常を忘れさせてくれる静謐な時間に包まれています。人びとの暮らしに寄り添う温かなサウナ文化や、シンプルで機能的なデザインの品々。世界一幸せな国とよばれる理由を、五感を研ぎ澄ませて感じる癒やしのひとときが待っています。

都心のすぐ隣に豊かな森と湖が広がるフィンランド。自然は暮らしの一部であり、その中で汗を流し外気浴で心身を整える伝統的なサウナ文化は、日常の幸福度を高める大切な習慣です。静謐な自然と一体になる時間は、心を満たす至福のひとときです。

ノルウェー / オスロ
Norway



地球の鼓動を感じる、壮大なフィヨルドの聖域

氷河が数万年の歳月をかけて大地を削り出した、ノルウェー最大のハイライト・フィヨルド。両脇に切り立つ断崖絶壁と、エメラルドグリーンに輝く穏やかな海面は、言葉を失うほどの迫力です。船上からしか出会えない、雄大な自然が創り出した「造形美の極致」は、一生ものの感動を刻みつけます。

世界トップクラスの普及率を誇るEV車は、絶景を守りたいという願いの形。ノーベル・ピースセンターが象徴する平和への志と、環境への高い意識が響き合う美しいオスロの街並みには、未来を見つめる優しく清らかな空気が流れています。

国家や都市よりもゆるやかな地域

そのつながりを感じるヨーロッパ

グラン・プラス（ベルギー） FREE TRAVEL

ヨーロッパ連合（EU）が誕生してから30年あまり。その域内では国境を越えるのにパスポートを見せる必要がなく、流通するお金（ユーロ）もいっしょ。国家の共同体としてのEUですが、そこではいま、さらに小さな単位・地域どうしが互いの違いを受け入れて連なる「共異体」が志向されています。地域という視点からヨーロッパを旅する深さについて、文化研究を専門とする本橋哲也さんに伺いました。

EU＝ヨーロッパ連合とは、1993年のマーストリヒト条約で、「ヨーロッパが全部ひとつの統合した組織になりましょう」と生まれたものです。戦争の体験を踏まえて、「ヨーロッパというのはこのままじゃいけないんじゃないか」という思想を、ほぼ組織化しようとの試みです。

当初の理念は、3つぐらいあったんです。ひとつは経済的なもの。もともとヨーロッパ共同体（EC・1967年発足）はヨーロッパ経済共同体(EEC・1958年発足）から始まったいきさつもあります。ヨーロッパは単一市場にしましょう。つまり、お互いに関税は撤廃すると。そのためには共通の価値観を持つ、理想を掲げたということですね。端的に言うと民主主義と人権尊重ということになると思います。第二次世界大戦では民主主義もファシズムによって崩壊させられたし、人権の尊重というのもさまざまな他民族や少数派など大勢の人数を虐殺して徹底的に破壊されてしまったわけです。だから、この民主主義と人権尊重というのは絶対譲れなかった。

それをヨーロッパ全体の共通の価値にしましょうというのが、最大のイデオロギー的な理想のレベルではなかったかと思われます。その単一市場と共通の価値観を持つためには、何らかの法的な支配の仕組みをヨーロッパ全体で持ちたいわけです。

1993年に現在の形であるヨーロッパ連合ができて、すでに30年経っていることになります。「共通の価値観を持ちましょう」「単一市場にしましょう」「法の支配を徹底しましょう」ということは、かなりの程度定着したと見てもいいでしょう。ですが、冷戦が終結して、東ヨーロッパがソビエト連邦の支配下から脱却し始めますよね。そうなると、当然その経済的な利益を求める東ヨーロッパの多くの国が「EUに入れてください」ということになってくる。

だから、いわば西ヨーロッパから見ればヨーロッパ統合でも、東ヨーロッパから見ると西側に吸収されるということが次々と起こってくるわけですね。それが拡大していけばいくほど、当然そこには歪みというか、違う部分が出てきますよね。それがいまだに続いているひとつの大きな問題じゃないですか。拡大と深化をどうやって合意させるかという問題が。

旅行すればわかりますけど、ひとくちにヨーロッパといっても、各国で言語も文化も食べ物も人間性も全然違いますよね。

いま一番大きな問題になっているのは経済格差。そのなかで最も顕著な問題は、目に見えてわかります。「ヨーロッパはもう白人だけの国じゃない」ということでしょう。ヨーロッパとそれ以外の、端的に言うと中東やアフリカとの格差ですよね。経済格差が広がれば、中東やアフリカの人はヨーロッパに行ってより良い生活をしたいと当然思うようになりますよね。さらにそれに拍車をかけたのが、中東やアフリカで起こっているさまざまな内戦や紛争です。そこから逃れるために多くの人がヨーロッパをめざそうということになってくる。いまヨーロッパ共同体の理念を一番揺るがしているのは、間違いなくこうした難民の問題です。

EUの役割は大局的なこと、例えば多様性とかジェンダーの平等とか、人種問題を解決しましょうとか、難民を何とかしましょうとか、あと一番大きいのは環境問題ですが、それらに対処しましょうということになります。

風に舞うヨーロッパの国旗（ベルギー）

ヨーロッパ連合（EU）の歴史

1952年	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）発足：ベルギー、フランス、ドイツ（旧西ドイツ）、イタリア、ルクセンブルク、オランダ加盟
1958年	ヨーロッパ経済共同体（EEC）発足
1967年	ヨーロッパ共同体（EC）発足
1973年	デンマーク、アイルランド、英国加盟
1981年	ギリシャ加盟
1986年	スペイン、ポルトガル加盟
1990年	東西ドイツの再統一により、旧東ドイツが編入
1993年	ヨーロッパ連合（EU）発足
1995年	オーストリア、フィンランド、スウェーデン加盟
2002年	ユーロ流通開始
2004年	旧東欧社会主義国など10カ国が加盟
2013年	クロアチア加盟
2020年	英国が離脱（2025年12月現在、加盟国は27カ国）

歴史ある街並みとともにある、穏やかな日常（オランダ）

ところが、加盟する国家の財政とか体制とEUとは当然リンクすることもあるけど、実際は矛盾することの方が多いですね。そこで出てくるのが各国、特に南欧と東欧のいわゆるポピュリズムの問題ですよね。共同体としてのEUに属しているその反動として自国ファーストのようなポピュリズム政権ができています。

ヨーロッパには今、脱と奪というふたつの「ダツ」があります。

脱は、イギリスのブレグジット（EU離脱）のような問題。

奪は、ポピュリズムによって、EUの理念が簒奪・骨抜きにされる問題。

内側からポピュリズムによって骨抜きにされるか、もう一緒にやってられない！と抜けられるか。

西ヨーロッパを中心とするような均質な共同体はもう無理でしょう。それはもう諦めましょうというのが、ヨーロッパではひとつのコンセンサスになりつつあると思います。だから従来の共同体っていうのをちょっと考え直した方がいい。

それに代わって、多様性を抱えたような、いくつかのグラデーションを持った共同体にしていきましょうということが考えられているのではないでしょうか。

速度は違っても地方共同体じたいはめざして、問題ごとにさまざまに参加したり不参加であったり、その選択を許しましょうということは多分考えられていると思います。

大事になるのは、「地域」というのはどういうふうに考えるか。いわばローカルですよね。

ヨーロッパがめざすべきなのは、そういう地域が集まった「共異体」をつくっていくこと。それぞれに差異があるんだから、それを解消するんじゃなくて、差異を認めながら、むしろそれがあるからこそ個々の存在が際立つというのが「共異体」の考え方です。

皆さんがヨーロッパに行って考えるべきは、パリとかアムステルダムとか都市の単位で考えるんじゃなくて、その場所の地域の単位で考えた方がいい。

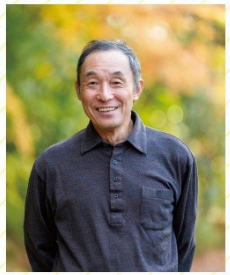
じつはヨーロッパの本当に大事にしなきゃいけないし、人びとが大事にしている場所というのは、いわゆる地域にあるはずです。顔の見える範囲で地域的なつながりによって物々交換的な地域社会統合をめざしていく。特に地域通貨と地産地消はそのための具体的な取り組みですよね。もちろんそこには現実的な問題、ナショナリズムとかポピュリズムと戦わなきゃいけないって問題はあるでしょう。でもそれぞれの地域の違いを大事にしながら、同時に共有できるような理念を探っていきましょうというのは、これはEUの歴史とそれから理念としては十分に今後も生かされていくでしょうね。現在のヨーロッパ内で戦争が起こること、例えばフランスとドイツはずっと喧嘩していた関係なのに、もはやこれはあり得ないでしょう。だからそこは間違いなく共同体のもと、ヨーロッパが進歩したと言えるんじゃないですか。

そして、それは東アジアに暮らす我々も学ぶべき点ではないでしょうか。

本橋哲也
Tetsuya Motohashi

英文学者・翻訳家

1955年東京生まれ。東京大学文学部卒業。イギリス・ヨーク大学大学院英文科博士課程修了。2025年3月に東京経済大学教授を退任。専門はイギリス文学、カルチュラル・スタディーズ。さまざまな出来事を自分事として捉え、自分の言葉で応答することに重きを置いている。



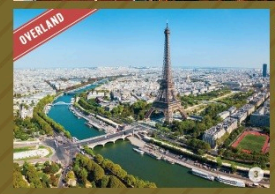
Europe, Full of Wonders !

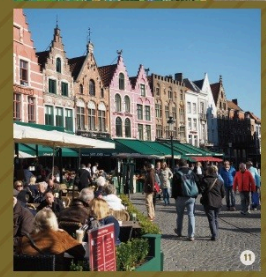
おいしい！たのしい！欧州の街歩き

	GOURMET 郷土料理	SOUVENIRS お土産	ART アート	PEACE & SUSTAINABILITY ピース＆サステナブル
地中海 ギリシャ イタリア				
	パスタ・アッラ・ノルマ カタニア発祥の名品パスタ。ある劇作家がそのあまりの美味しさに“オペラ「ノルマ」のように最高の傑作だ”と称したのが名前の由来とされています。	**陶磁器** 白地に青いモチーフが映える陶磁器は、古代の神話や幾何学模様からインスピレーションを受けたものも。素朴で美しい器や装飾品たちが店に並びます。	**アクロポリス博物館** アテネのアクロポリスの丘の麓に建つ、古代ギリシャの至宝を展示する現代建築の粋。パルテノン神殿の彫刻群など、世界遺産から出土した膨大なコレクションを鑑賞できます。	**平和の象徴 オリーブの木** 原爆の非人道性を訴える「おりづるプロジェクト」のメンバーとサントリーニ島の方々との交流の中で植樹されたオリーブの木には、核なき未来への願いが込められています。
	カタニア（イタリア）	ビレウス（ギリシャ）	アテネ（ギリシャ）	サントリーニ島（ギリシャ）
イベリア半島 スペイン ポルトガル				
	イワシの炭火焼き ポルトガルの夏の風物詩。新鮮なイワシを丸ごと豪快に炭火で焼き上げ、岩塩を振ったシンプルな料理です。香ばしく焼けた皮と、ふっくらジューシーな身が絶品です。	**コルク製品** コルクの生産シェアが世界一のポルトガル。木を伐採せず再生する樹皮を利用したコルク製品は、軽さと肌触りが魅力で、環境にも優しいお土産として注目されています。	**カタルーニャ美術館** モンジュイックの丘にあるカタルーニャ芸術に特化した美術館では、中世ロマネスク美術のフレスコ画コレクションが世界屈指の規模と質を誇ります。	**ヴァン・ナチュール** ポルトガルの豊かな自然を象徴する自然派ワインは、農薬や化学肥料を使わず、ブドウ本来の力と自然の酵母のみを使用し、環境に配慮した農法を用いて造られます。
	リスボン（ポルトガル）	リスボン（ポルトガル）	バルセロナ（スペイン）	リスボン（ポルトガル）
西ヨーロッパ フランス オランダ ドイツ ベルギー				
	チョコレート 「世界一」の呼び声高いベルギーのチョコレート。カカオバター100%へのこだわりと、王室御用達の伝統が裏打ちする高い技術は、まさに極上の味わいです。	**クロンペン** 湿地の多い土地で足を泥や怪我から守るために生まれたとされる、カラフルな装飾が施された木靴。風車やチューリップと並ぶオランダを象徴する飾り物としても有名です。	**モネの庭園** クロード・モネが晩年を過ごし、数々の作品を生み出した邸宅と庭園では、「睡蓮」の連作の舞台となった水の庭や、花で彩られた「クローズ・ノルマン」の庭を散策できます。	**ハーフェンシティ** 住居不足という課題を役割を終えた港を再生することで補う「ハーフェンシティ」。独自の環境認証など先進的な試みにより、世界が注目する大規模再開発地区です。
	ゼーブルージュ（ベルギー）	アムステルダム（オランダ）	ジヴェルニー（フランス）	ハンブルク（ドイツ）
北 欧 デンマーク スウェーデン ノルウェー フィンランド アイスランド				
	スモーブロー ライ麦パンにさまざまな具材を美しく盛り付けた伝統的なオープンサンド。ナイフとフォークで上品に楽しむのがマナーとされ、具材の組み合わせは100種類以上あります。	**ムーミントロール** トーベ・ヤンソンが生んだ森の妖精、「ムーミントロール」。マグカップやステーショナリーなどのアイテムは、世代を超えて愛される人気のお土産です。	**マルメ市立図書館** 北欧デザインを象徴する窓「光のカレンダー」は、ガラス張りの壁面が時間や季節によって異なる自然光を取り込む壮麗な空間で、読書や休憩の場として市民に愛されています。	**ノーベルピースセンター** 毎年オスロで授与されるノーベル平和賞の歴代受賞者の功績や平和運動の歴史、現代の平和への課題などを紹介しており、紛争や平和構築について考える場になっています。
	ストックホルム（スウェーデン）	ヘルシンキ（フィンランド）	マルメ（スウェーデン）	オスロ（ノルウェー）

WORLD HERITAGE

めくるめく絶景の数々！欧州の世界遺産





①サグラダ・ファミリア（スペイン）②ジェロニモス修道院（ポルトガル）③パリのセーヌ河岸（フランス）④コロッセオ（イタリア）⑤フィレンツェ（イタリア）⑥アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所（ポーランド）⑦エレクティオン神殿（ギリシャ）⑧グエル公園（スペイン）⑨ブレーメンのローラント像（ドイツ）⑩モン・サン・ミシェル（フランス）⑪ブルージュ歴史地区（ベルギー）⑫サンティアゴ・デ・コンポステーラ（スペイン）⑬シンクヴェトリル国立公園（アイスランド）⑭アムステルダムの運河環状地区（オランダ）⑮ポンペイ（イタリア）⑯クロンボー城（デンマーク）

時が息づく場所、エジプトへ

Egypt

A Voyage to Experience the World …

世界一周 × あなたの夢の場所は？

つねに新しい刺激に満ちた、
ニューヨークへ

NewYork

VOYAGE TALK

旅人が綴る風景

湯川れい子
Reiko Yukawa

音楽評論・作詞家

アイスランドの思い出

私にとって旅とは、単なる移動ではありません。音楽への探究心を主軸に、人との出会いがあり、そして過去・現在・未来へと連なる「自己」を見つめるきっかけが訪れる、壮大な体験だと感じています。過去に何度かピースボートでも旅をしてきましたが、本当に楽しかった。いろいろな世代、さまざまな思想を持つ人たちが混じり合っている空間は、ほかのクルーズにはない楽しさですね。

アイスランドに、私は忘れがたい思い出があります。日本が生んだ最も世界的なアーティスト、オノ・ヨーコさんが2007年、首都レイキャビクに世界平和を祈願する光のモニュメント「イマジン・ピース・タワー」をつくりました。以前、私はヨーコさんに「なぜアイスランドなの？」と尋ねたことがあるんです。彼女はこう教えてくれました。ひとつは、冷戦下の1986年にレーガンとゴルバチョフが会談し、“冷戦の終わりのはじまり”となった場所であること。そしてもうひとつ、アイスランドは世界で最初の民主主義の会議が始まった場所だということ、と。そういった歴史ある場所に、ヨーコさんはジョンとの思い出から着想した光のタワーを建てたのです。

彼女の凄さは、その愛の深さと精神力にあります。ジョン・レノンがあのような悲劇で亡くなった時、彼女は血まみれになったジョンの眼鏡を、洗うことなくそのまま窓辺に置きました。そして、それを自ら撮影し、アルバムのジャケットにしたのです―私なら、辛くて洗ってしまったかもしれない―でも彼女は、悲しみを直視し、「二度と繰り返してはいけない」という強烈なメッセージに変えたのです。アイスランドの地で、私は彼女の祈りと、平和への強い意志を感じずにはいられません。

Profile

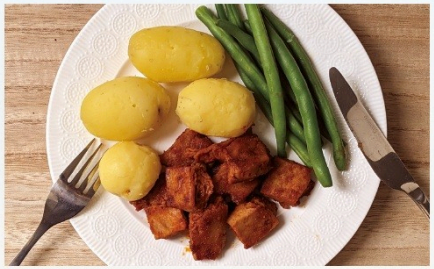
昭和35年、ジャズ評論家としてデビュー。その後、16年間に渡って続いた『全米TOP40』（旧ラジオ関東・現ラジオ日本）を始めとするラジオのDJ、また、早くからエルヴィス・プレスリーやビートルズを日本に広めるなど、独自の視点によるポップスの評論・解説を手がけ、世に国内外の音楽シーンを紹介し続け、今に至る。作詞家としては、代表的なヒット曲に『ランナウェイ』、『センチメンタル・ジャーニー』、『六本木心中』、『恋におちて』など多数。

※本クルーズ中に「イマジン・ピース・タワー」の点灯をご覧いただくことはできません

岡根谷実里
Misato Okaneya

世界の台所探検家

オランダ、合理と団らんの食卓



オランダの食を一言で言うならば、「合理的」。職場の昼食休憩は30分で、学生も社会人も大学教授も、茶色い食パンにチーズを一枚はさんだものを取り出してかじりつきます。普段の夕飯は、焼いた肉、ゆでじゃが、ゆでたさやいんげんか芽キャベツを皿に並べたのが定番。夕飯の支度にかける時間は30分以下、スーパーにはカット野菜が各種並び、エアフライヤーが大活躍。食べるのもつくるのも、効率中毒なんじゃないかと思うほど合理的です。その背景には、プロテスタントの中でも禁欲主義の強いカルヴァン派の影響があるとされています。

そんなオランダの食をはたから見て「食に興味がないのかな…」と思っていたのですが、生活していると違った一面も見えてきます。夕方16～17時になると、働いている人たちは家に向かいます。夕飯は17～19時頃という家が多く、私の知り合いは皆家族揃って食べることをとても大事にしています。家族で食卓を囲む機会は、大人は残業子どもは塾に忙しい日本より多そうです。レストラン選びでも味より雰囲気のよさを重視する人びとと過ごしていると、食の豊かさは皿の上だけではなく、それを囲む人びととの間に生まれるのだとはっとさせられます。

ストリートグルメでぜひ食べていただきたいのが、ハーリング（ニシンの塩漬け）。屋台では食べやすいよう切ってくれることもありますが、まるごとのニシンの尾をつまんで天を仰いで食べる人の姿もあるはず。調理もおしゃれな盛り付けも不要。気負わず効率重視なオランダらしい軽食です。

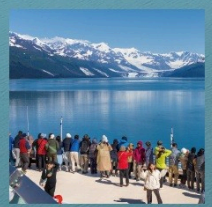
Profile

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、クックパッド株式会社に勤務し、独立。世界各地の家庭の台所を訪れて一緒に料理をし、料理を通して見える暮らしや社会の様子を発信している。40以上の国と地域、190以上の家庭を訪問。講演・執筆・研究などを行う。著書に『世界の食卓から社会が見える』（大和書房）、『世界のお弁当とソトごはん』（三才ブックス）など。京都芸術大学客員講師。探検の傍ら、現在はオランダの大学で文化人類学を専攻中。

Beautiful ALASKA

澄みきった空気に 満ちてゆく心
静かなる感動に出会う アラスカクルーズ

北米の地に初夏の訪れが告げられるころ、アラスカクルーズは活況を迎えます。アクセスのよいバンクーバーを出発点に、北米西岸の雄大な自然を楽しみながらアラスカ中南部の港町スワードへ。美しき氷河とフィヨルド、白く煙る海に漂う氷塊。雪を抱く険しい山々と、容易に人を寄せつけない原野 — そこには、人知を超えた地球の姿が広がっています。出会うすべての光景に、満ちてゆく心。静けさをたたえた海をゆくアラスカクルーズは、忘れられない旅の記憶となるでしょう。



果てしない氷の世界へ

北米最大級のハバード氷河や、氷河が密集するカレッジフィヨルドを間近で眺める特別な体験を。「グレイシャーブルー」とよばれる美しい蒼をたたえた氷河は、ぜひこの目で見たい神秘の景観です。

絶景の中で過ごす夢の時間

環境を変えることなく、船の“いつもの場所”で絶景が眺められる夢のような時間。船室のバルコニーやデッキはもちろん、暖かな船内からも圧倒的な自然美を心ゆくまでご覧いただけます。

動物たちとの出会い

アラスカのフィヨルド地帯は野生動物たちの楽園。愛嬌たっぷりのアザラシやラッコ、“空の覇者”ハクトウワシ、ときにはクジラのブリーチングに出会えることもあり、デッキは歓声に沸きます。

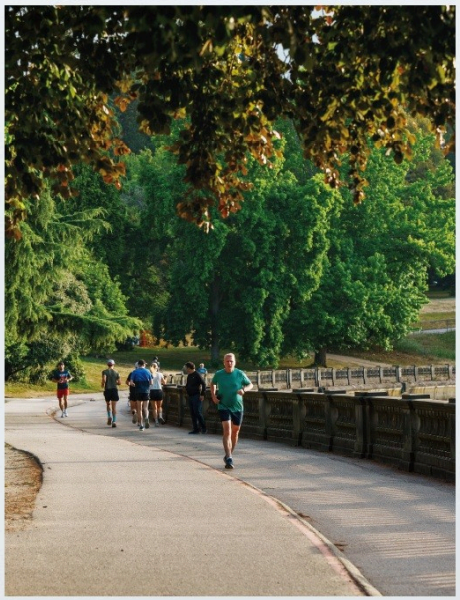
美しい瞬間をさらなる思い出に

クルーズ中は、特別な時間をさらに楽しむためのイベントも。沈まぬ太陽が照らす“白夜”と“氷河の白”にインスパイアされた「白」がテーマのパーティーが、クルーズの思い出に花を添えます。

VANCOUVER
バンクーバー

アラスカ氷河クルーズの出発の地

摩天楼がそびえる都会的な街並みの間から、北米らしい雄大な自然が顔をのぞかせるバンクーバーの街。カナダ西岸の玄関口であるこの街を出発点に、世界中のクルーズ船が冒険の地アラスカをめざします。アクセスの良さはもちろん、都市と自然の共存や先住民族との出会いなど、多彩な魅力を内包した美観都市です。



ショッピングの楽しみ

赤レンガが美しいダウンタウンに、マーケット散策やカナダ名物も楽しめる、見どころ満載の街。

豊富なアクティビティ

緑豊かな渓谷や山でのアトラクション、市民が憩う都市公園など、旅の間も大自然に癒されます。

エシカルな取り組みも

天然素材でできた土産物や、持続可能な漁業法で水揚げされた魚介類を提供する店も増えています。

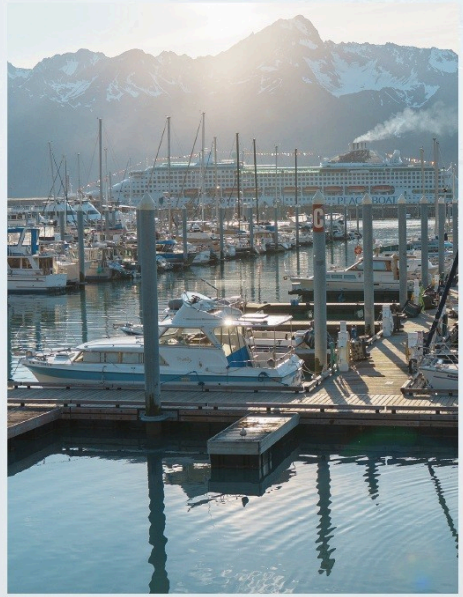
先住民族との出会い

先住民族の伝統や独自性、歴史を未来へと受け継ぐ芸術が、現代の都市風景の中に息づいています。

SEWARD
スワード

ここからはじまる アラスカ冒険の旅

山々の緑が、静けさをたたえた水面を染める美しい港町 ── 長く寒い冬が明けると、アラスカ中南部の街スワードには、海や山でのアクティビティを求めて多くの旅人が訪れます。この海から、野生動物の宝庫である国立公園へ。そして、この街を発着点に内陸の街や山々へ。アラスカの大自然へのゲートウェイとなる街、それがスワードなのです。



歴史をつなぐ

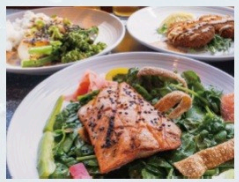
北米最北を走る勇壮なアラスカ鉄道。州旗と同じ濃紺の車体が、大自然の中を力強く駆けます。

Into the Wild

街と原野との境目には、針葉樹の濃緑が迎える美しい公園も。アラスカの豊かな自然が広がります。

素顔のアラスカ

可愛らしい建物が並ぶダウンタウンや海辺を歩くひととき。束の間の夏の太陽が街を優しく包みます。



獲れたての海の幸

アラスカグルメの定番は、やはりサーモン。脂ののった天然物をグリルやバーガーでいただきます。

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

香港

高層ビルが並ぶ街並みや歴史ある寺院、活気に満ちた市場まで。多彩な魅力を知る

スペイン
タラゴナ

地中海の恵みを凝縮した、とっておきの一皿を。スペインの海街で美味なる出逢いを体験

スウェーデン
ストックホルム

輝く水辺と瑞々しい自然が映える美観が魅力。彩りあふれる街で過ごす夢のような時間

アイスランド
レイキャビク

雄大な景色に囲まれた世界最北の首都。北の大地が抱く地球の美しさに魅了される

メキシコ
マンサニージョ

本場で堪能したい、スパイシーで美味なる逸品。世界も認めたメキシコ料理に舌鼓

シンガポール

人や文化の融合が生む多彩な景観。グルメな街で出会う、スパイスの効いた"口福の味"

ポルトガル
リスボン

車窓からのぞむ風情あふれる街並み。大航海時代の栄華が街を照らす歴史都市探訪

フィンランド
ヘルシンキ

初夏の北欧で出会うまばゆい緑。森や湖を楽しみ、サウナで汗を流すリラックスタイム

米国
ニューヨーク

自由の女神が迎える入港シーンも必見！かつて画面越しに観た、憧れの景色を求めて

カナダ
バンクーバー

緑と花が彩るクラシカルな街角。自然と都市が美しく調和するカナダの美観都市へ

スリランカ
コロンボ

喧騒あふれる街と、静謐な祈りの場。双方の魅力が共存するエキゾチック・シティ

フランス
ル・アーブル

印象派の画家たちが愛した美しい光景の中へ。世界遺産訪問も楽しみなフランスの港

エストニア
タリン

色とりどりの建物が建ち並ぶ、絵本の世界のような美しい世界遺産の街へ

ジャマイカ
オーチョリオス

南国情緒あふれるジャマイカのリゾート地。海と山の双方で、思い切り自然を楽しむ

アラスカフィヨルド遊覧

悠久の時が創り出した圧巻の大自然が広がる、アラスカフィヨルド遊覧を楽しむ

エジプト
ポートサイド

ギザの三大ピラミッドにスフィンクス―憧れ続けた世界遺産と、夢の出会いを

ベルギー
ゼーブルージュ

無数の運河が張りめぐらされた「水の都」ブルージュへ。歴史を感じる街歩きを楽しむ

デンマーク
コペンハーゲン

港町の風情に心ときめくひととき。華やかな王宮や歴史的建造物をめぐる至福の旅を

パナマ
クリストバル

守り継がれた伝統の技が光る、美しい工芸品との出会い。大自然が魅了するパナマの地へ

米国
スワード

絵画のようなロケーションがここに。自然のぬくもりを全身で感じるアラスカの港町

ギリシャ
サントリーニ島

エーゲ海の太陽が照らす白亜の街並み。バカンス気分に存分にひたる人気のリゾート

オランダ
アムステルダム

運河に囲まれた世界遺産の街並み。芸術の都アムステルダムで紡ぐ、絵になる時間

ギリシャ
ピレウス

遺跡や石畳が雄弁に語りだす、古代ギリシャの物語。歴史ロマンが誘うアテネの地へ

ドイツ
ハンブルク

自由な気風とハンザ都市の栄光が交差する、歴史が薫るエレガントな北ドイツの街

イタリア
カタニア

バロック様式の街並みと、古代ギリシャ・ローマの遺跡が彩る見どころ豊かな街

ノルウェー
オスロ

アートな空間に心やすらぐ北欧の芸術都市。自然と建築が心地よく共存するオスロへ

OPTIONAL TOURS 旅をより充実したものに ― オプショナルツアーでもっと楽しむ！

限られた時間を有効に使い、さまざまなスポットを訪れることができるオプショナルツアー。ふつうの旅行ではなかなか体験できない現地の人びととの交流や文化体験も、ピースボートクルーズならではの魅力です。1日かけてめぐるコースや短時間で気軽に参加できるショートコースのほか、船を一時下船し、通常の寄港地から離れた場所を訪れるオーバーランドツアーなどのプランをご用意しています。

オプショナルツアーの多彩な魅力をご紹介します！

五感で楽しむ、アジアの魅力

アジアの多彩な食の魅力を味わったり、歴史や子どもたちとのふれあいを通して、その土地に息づく文化を感じたりと、心に残る体験が待っています。

歴史と文化が息づくヨーロッパ

ヨーロッパならではの美しい街並みや名所をめぐりながら、芸術・文化・グルメなど、その土地ごとの魅力にふれるツアーをご用意しています。

光と自然に包まれる、北欧の街歩き

絵本の世界に入り込んだかのような街並みを散策したり、北欧ならではの自然を体感したりと、文化と自然の両方を楽しめるのが、この地域の魅力です。

多彩な体験でめぐる北米・中南米の旅

定番スポットを訪れるものから先住民族の方々との出会いを楽しむプログラム、さらにオーバーランドツアーでは、より多くの土地を訪れることができます。

ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンダーボートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できないこともございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプショナルツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースボートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- ご自宅から集合・解散地等発着港までの交通費は含みません。

パシフィック・ワールド号でゆくピースボート地球一周の船旅
2029年4月 Voyage132
横浜発着109日間 2029.4.5（木）- 7.22（日）

日程		寄港地	
4.5 木	出航 午後	横浜	
4.10 火	入港 朝 出港 深夜	香港	
4.15 日	入港 朝 出港 深夜	シンガポール	
4.20 金	入港 朝 出港 夜	コロンボ	スリランカ
スエズ運河通航			
5.1 火	入港 午後	ポートサイド	エジプト
5.2 水	出港 深夜		
5.4 金	錨泊 朝 発 夜	サントリーニ島	ギリシャ
5.5 土	入港 朝 出港 深夜	ピレウス	ギリシャ
5.7 月	入港 午前 出港 深夜	カタニア	イタリア
5.10 木	入港 朝 出港 深夜	タラゴナ	スペイン
5.13 日	入港 朝 出港 夜	リスボン	ポルトガル
5.16 木	入港 午前	ル・アーブル	フランス
5.17 木	出港 午後		
5.18 金	入港 朝 出港 夜	ゼーブルージュ	ベルギー
5.19 土	入港 朝 出港 深夜	アムステルダム	オランダ
5.21 月	入港 朝 出港 夜	ハンブルク	ドイツ
5.23 水	入港 午前 出港 夜	オスロ	ノルウェー
5.26 土	入港 午後	ストックホルム	スウェーデン
5.27 日	出港 午後		
5.28 月	入港 午前 出港 深夜	ヘルシンキ	フィンランド
5.29 火	入港 朝 出港 深夜	タリン	エストニア
6.1 金	入港 早朝 出港 深夜	コペンハーゲン	デンマーク
ソグネフィヨルド遊覧			
6.6 水	入港 朝 出港 夜	レイキャビク	アイスランド
6.13 水	入港 午前	ニューヨーク	米国
6.14 木	出港 深夜		
6.19 火	入港 早朝 出港 午後	オーチョリオス	ジャマイカ
6.21 木	入港 午前	クリストバル	パナマ
6.22 金	出港 早朝		
パナマ運河通航			
6.27 水	入港 午前 出港 夜	マンサニージョ	メキシコ
7.4 水	入港 午後	バンクーバー	カナダ
7.5 木	出港 夜		
アラスカフィヨルド遊覧			
7.11 水	入港 朝 出港 夜	スワード	米国
7.22 日	帰港 午前	横浜	

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00～	4:00～	6:00～	8:00～	12:00～	18:00～	23:00～
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

Why Travel by Cruise?

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

世界をめぐる旅の中で、その土地ならではの食文化にふれられるのは、世界一周クルーズならではの贅沢です。寄港地で仕入れた食材を生かし、コース料理からアラカルトまで洗練されたメニューをご用意。ダイニングルームでは気分に合わせてメニューを自由に組み合わせることができます。特別な日にはより上質な「シェフズコレクションメニュー」も追加でき、優雅な食のひとときをお楽しみいただけます。

多様なニーズに合わせて選べる船室の数々

Pair Owner's Suite　ペア オーナーズスイート

Pair Premium Suite
ペア プレミアムスイート

Pair Junior Suite
ペア ジュニアスイート

ペア バルコニーⅠ

シングル スタンダードインサイドⅠ・Ⅱ

セミシングル アウトサイドⅠ

フレンドリー スタンダードインサイドⅡ

Why Travel with PEACE BOAT?

「世界一周」という特別な旅が、サステナブルなものであるために

40年以上にわたり船旅を企画し、クルーズを成功させてきたピースボートクルーズは、これまでに培った経験を生かし、よりエシカル(倫理的)でサステナブルな旅を追求しています。地球環境への配慮はもちろん、寄港地で私たちを迎えてくれる国々や人びととの相互理解を深め、旅を通じてともに持続可能な未来を築くことをめざしています。

ASC-C-02321

MSC-C-57397

洋上レストランで、持続可能な水産物を提供

持続可能な漁業で漁獲され適切に管理されたMSC認証の水産物、認証済み養殖場から供給されたASC認証の水産物を積極的に取り入れ、持続可能な水産業への取り組みを選択することを心がけています。

ノーベル平和センターと提携した常設展を開催

2025年4月、ピースボートとノルウェーのノーベル平和センターの提携により、ノーベル平和賞授賞式に合わせて更新される「ノーベル平和賞企画展」がパシフィック・ワールド号に常設されています。

SDGs公式キャンペーン船として認定

国連とパートナーシップを結び、2015年に決議された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定され、船内や訪れる国々でSDGsに関連する取り組みを実施しています。

国連海洋会議を本船パシフィック・ワールド号で開催

国連本部があるニューヨーク寄港時は船上で国連会議を開催。ここでの交流や意見交換は国連に反映され、環境保護の取り組みや議論の活性化につながり、若い世代の声を届ける役割も果たします。

交流を続けながら、世界各地へ支援物資を

たくさんの物を運べるという大型客船の特性を活かし、寄港地のニーズに合わせて支援物資を届けています。届ける物資は楽器や文房具、衣料品、スポーツ用品、衛生用品、車など、多岐にわたります。

各界の専門家が地球一周の旅をナビゲート

遠隔地への旅を通して知識を深め、現実的な社会問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなり、それらを「自分ごと」として捉える視点や思考を育みます。